

【音読みと訓読みの見分け方】

① 送りがなのつく読み方は訓読み。

【例】待つ↓「ま」は訓読み

(ただし「愛する」「訳す」のようなサ行変格活用
およびそれがそれが五段活用になったものは除く)

② 三音^{おん}以上は訓読み。

【例】「形」の「かたち」は三音なので訓読み。

「けい」は音読み。

③ 「ん」を含むものは音読み。

【例】「本」の「ほん」、「金」の「きん」な

どは音読み。

④ 「きゃ」「しゅ」「ちよ」のような拗音^{ようおん}

を含むものは音読み。

【例】「客」の「きやく」は音読み。

⑤ 国字（日本で作られた字）は訓読み。

↓「粹」^{わく}「畑」^{はたけ}「峠」^{とせうげ}

⑦ 読み方がひとつのものは音読みが多い。

「肉」「陸」「台」↓音読み

【例外】「垣」^{かき}「潟」^{かた}「堀」^{ほり}「繭」^{まゆ}「粹」^{わく}は訓読み

*中二は覚える

⑥ 意味が分かるなら訓読み、意味が分かりにくいときは音読み。

高い山^{やま}↓意味○
高い山^{さん}↓意味×
高い山↓意味×
高い山↓意味×

そんな事^{こと}↓意味○
そんな事^じ↓意味×

【例外】絵画^え・絵図^え↓「絵」の「かい」「え」

はどちらも音読み

⑧ 語尾が「うんちくいつき」は音読みが多い。

音読み		
等 ^{とう}	本 ^{ほん}	達 ^{たち}
陸 ^{りく}	会 ^{かい}	発 ^{はつ}
的 ^{てき}		

*当然、例外がある

貝^{かい}は訓読み

道^{みち}は訓読み、「どう」が音読み

初^{はつ}は訓読み、「しよ」が音読み

月^{つき}は訓読み、「げつ」が音読み

など、読みが複数あると例外が多くなるので、

「うんちくいつき」は本当に悩んだときに使う。